

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.28 2011年6月30日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。前回のレターをお送りした2月16日が遠い遠い昔のように思えるほど、あの3・11以来あまりにも辛い出来事が多すぎた数ヶ月。授業開始の祈りに、大震災被災者の方々と原発危機回避へのとりなしが含まれなくなる日はいつのことでしょうか。ここ中目黒にも昨年ひけをとらぬ暑い夏が到来しました。庭の草花は雨と日差しをたっぷり吸い込み成長しています。もう止まってはいただけません。汗を流しつつ、神学しつつ、そして今この時に何をすべきか問い続けつつ、歩みます。

「私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる」(ハバクク3:19)

校長 関野祐二

● ナカメ五丁目の風は何色

在校生の平均年齢が下がったな、というのが率直な印象の今年度。二十代が増え、年代前半もチラホラいて、考えてみれば自分の息子娘世代なのですね。音楽センスも、会話のテンポも、IT機器の使いこなしもオジサン世代とは隔世の感あり(認めたくないケド現実)。これからどう育てられるか楽しみです。丁々発止の議論と赤ペンの嵐にへこたれず、ついてきてくださいね。

新企画(?)もいくつか打ち出しましたよ。まずは月一度の環境整備。不定期だったのを定期的にしたいのですが、草取り・窓ふき・不燃物片づけ・フィルター清掃などなど、三回でずいぶんはかどりました。学校側からの指示でなく、(やむにやまれぬ)在校生からの、(見るに見かねての)提案を受けたかたち。だから、時間と体力に余裕のある人が自発的に参加します(終了後のアイス&飲み物目当てもオッケー)。もうひとつは図書委員採用。図書室の利用度アップで、管理を担当するY先生のキャバを超えて来たことから、ボランティアスタッフを募った訳。四人が決まりスタンバイ中ですが、立ち読み歓迎の活躍が楽しみです。行く行くはバーコード管理かな。

● 城壁の開門?それとも??

ある金曜日、新約聖書講読を終えたばかりのクラスに侵入し、あることないこと話していたら、「先生はどんなツールを使って原典釈義してるんですか?」と。それならウチへどうぞ、というなりゆきで、四人を我が書斎へとお招きしたのでした。思えばここ数年、クラス人数が増えたこともあって、誰も招いてこなかったと反省しきり。隔ての垂れ幕が裂けた新約時代は、もっとプライベート空間(至聖所?)に神学生たちを迎え入れ、双方向性の交わりを深めたく願います。最近オーディオ機器を部分入れ替えしたので、そのお披露目もちょっぴり(しっかり)したいな。

片づけも掃除もなしのありのまま(川柳みたい)。テーブルを囲み、少々ホコリのかぶった(?)原典ツールを次々と紹介しました。自分が神学生の頃、教師は手の届かない存在に見えましたが、今やそこに自分が立たされて、もしや彼らは「なあんだ、こんなもんか」と失望しているのでは、

との不安。それでもいいのです。現場に出る時間がすれただけの主にある同労者として、同じ空間時間を共有し、みことばをどう味わい、どう語るかに花を咲かせる、それがうれしいのです。十年もすれば、彼らもきっと後進の前に立たされ、情熱をもって指導する側になるのですから。

● 組織神学はこの時のため

我が組織神学は、年間12単位60回の大型クラス。前期は週2回連続なので、毎回のレポートもたいへんです（まるでヒトゴト）。学校用スチール机（やっぱりあれが便利）を丸く並べ、学んだことを実生活へどう適用するか、問題提起と提言を分かち合います。大震災後、「神などいない」「なぜ私の家族だけが」「誰の罪でこうなったのか」などの呻きがマスメディアに流れ、「神論」を学ぶ中、その呻きはそのままクラスの討論テーマに。答えはすぐに（あるいは永遠に）出なくても、慈しみ深い善き神の支配と主権の枠組みからひとつひとつの事象を考えることの出来る安心感を覚えました。そう、組織神学ってきわめて実際的な、現場でこそ役に立つ学びなのですよ。神学生諸君、救援ボランティアに赴いたら、現地でぜひ神学しつつ、働きに当たってくださいね。

● クラス二分割

予想はしていたのです。昨年度の入学者が大挙して、ヘブル語とキリスト教教育クラスに押し寄せることを。蓋を開けてみれば、前者20名・後者16名で、担当教師のH師とS師（ワタシじゃないよ）が声を荒げ、「演習不可能。なんとかして！」の悲鳴。思案したあげく、前代未聞のクラス分割と、連続2クラス強行に踏み切りました。奇しくも両クラスは金曜日。まず午前キリスト教教育1回目をお昼まで。昼食タイムをはさんで午後1時から同じく2回目クラスを3時半まで。今度は3時半よりヘブル語1回目クラスを午後6時まで。6時半からは2回目を9時25分まで。聞いただけで暑苦しいでしょう。おまけに金曜午後は新約聖書講読選択クラスもあるので、履修学生が入り乱れてんやわんや。中には三つのクラスを連続履修という強者もいます。ところで、当の教師は連続授業で大丈夫かと案じたら、何のことはない、涼しい顔して「最初のクラスで失敗しても、次のクラスでやり直せるので助かります」って。あれれ、2回目クラスのほうがお得なのかな。けっこうその日の都合で出席クラスを変えたり、神学生もしたたかですよ。

● さあ夏休みまで、学期休みまで

毎年のことながら、五月連休から夏休みまでの一ヶ月半は、神学生にとって試練の日々。祝日休みはなく、梅雨から夏へと気候が変動する時期も重なって、体力的にもつらいのです。夏休み明けの宿題レポートがそろそろ気になり出す頃。後期履修届作成に向かい、掲示板前にたむろして、来年度暫定カリキュラムとにらめっこする季節でもあります。教師は全力投球でボールを投げ込み、バッターボックスの神学生はジャストミートを狙う。そんな緊張感も出て来ました。

そういえば、今年は10月の学期休みに、夫婦で学生会リトリートへと招かれました。「ワタシが行ったらリトリートにならないよ」と遠慮したのですが、「夫婦の献身者魂を語ってほしい」（だいぶ脚色あり）とのこと。さしずめ結婚25周年記念行事ですね。ついに暴かれるヒミツ、かな。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 東日本大震災からの復興と原発危機回避のため。救援ボランティアに行く方々の守り。
- ・ 在校生71名の前期学びと健康、教職員15名の働き。主の良き器を養成できるように。